

ておくと格納容器自体が危険です。格納容器は放射性物質の拡散を防ぐため、絶対に護らなければならない。それを防ぐには圧力を制御出来るように調整しなければならない。

蒸気の一部を大気に放出するという対応です。



午前 10 時 17 分、ベント開 作業開始 空気圧縮器の空気不十分で作業難航。

燃料棒を覆っているジルコニウムが高温になり反応を起して水蒸気から水素を生成しますから、水蒸気の放出と同時に軽い水素は上昇して放出され、建屋の上部に滞留し、水素の濃度が 4 % を超える状態で空気中に存在すると極めて危険な状態になります。

このような状態がしばらく続いたのは、空気中に大量の水蒸気を含んでいると爆発は起きない。しかし建屋の上部は外気の影響を受け、まだ 3 月の寒い日でしたから、格納容器内と比べもの凄いい差があり、水蒸気はやがて水滴に替わり、水蒸気の量が段々と減少し、混合比が替わって何らかの発火要因があり

午後 3 時 36 分、 1 号建屋水素爆発

午後 4 時 放射線量 500 μ Sv/h 超える

事故当日、11 日の東電本社では、勝俣恒久会長、鼓紀男副社長（原子力担当）は「第九回愛華訪中団」と称する電力会社、大学関係者、マスコミ関係者で構成、大勢の団員からなるご一行様を引き連れて北京、蘇州を訪問していた。

清水社長は関西方面に出張中で、事故の連絡を受けても東海道新幹線は全線ストップ、飛行機も飛ばず、高速道路は大渋滞、自衛隊の飛行機を出すよう要請したが、防衛庁から 1 民間人に利用させるのは如何なモノかと断られ万事窮す、本社機能は緊急事態に対応できないまま過ぎてしまった。

菅総理は自衛隊ヘリで原発の事故現場にいき、更に佐藤知事と会っている。

2 号機、3 号機には全交流電源喪失を考慮し、隔離時注水系 (RCIC)・高圧注水系 (HPCF)